

スキー協会

沿革

十勝の冬は、寒く、雪にとざされた冬期間の体力づくり、心身の鍛錬、レクリエーションとしての生涯スポーツのスキーを普及、発展させるため、昭和46年1月20日、幕別町スキー協会が設立されました。幕別町のスキー歴は、戦後、札内の陣野原さんの御好意により、東斜面をスキー場（白馬ヶ丘スキー場）として開放していただき、利用させていただきました。その後、千住の西尾さんの北斜面を借り受けて、札内（白人）スキー場として開設され、全十勝のスキー大会等も開催されました。また、土曜・日曜日には町民はもとより、帯広からもスキーヤーが訪れ、ファミリースキー場として親しまれ、賑わって居りました。

昭和45年12月、幕別温泉の開発計画により温泉の西側斜面を町営スキー場としてオープン、十勝地方で初の公認30m級の本格的なジャンプ台としてヒュッテを設置した。また、翌年にはリフトも設置され身近なスキー場として、各種十勝大会（ノルデックの部）等も開催され、利用客も多かったが、残念ながら西斜面のため北西の強風をまともに受けて雪のほりつけが悪く、加えて昭和50年の大雨により土砂が流出してしまい、スキー場として使用不能となった。以後、ジャンプ台のみ使用している。昭和51年には、千住の旧西尾さんの札内（白人）スキー場を仮の町営スキー場として1シーズン利用しましたが、土地所有者の都合で翌年から使用不可となりました。丁度、幕別町の開町80周年記念として記念公園を造成する計画で、明野ヶ丘（スワ山）に約23haの土地を購入しましたので、北斜面をスキー場として造成することになり、早速、抜根・整地が行われ、昭和52年より正式に幕別町営スキー場としてオープンいたしました。翌年の春には斜面に芝を植えて土砂の流出を防ぎ、ゲレンデを整備いたしました。スロープの長さは約300mで、中・緩斜面であり、初心者から中級者まで十分に楽しむことが出来ます。また、夜間照明燈を3基設置してあり、夜間スキー教室等も開催され地元は勿論、近隣の市町村からもスキーヤーが来てナイターを楽しんでいます。

＜歴代スキー協会役員氏名＞

(任期)	S ₄₆ ~ S ₄₈	S ₄₈ ~ S ₅₀	S ₅₀ ~ S ₅₂	S ₅₂ ~ S ₅₄ (現在)
会長	梅田音市	梅田音市	牛尾 毅	牛尾 毅
副会長	馬淵弘文	牛尾 毅	山下孝三 養島 茂	養島 茂(指導部) 生出忠夫(ノルデック部) 杉本明光(アルペン部)
#				
理事長	養島 茂 千葉恵博	小幡泰彦	杉本明光	
事務局長	松山雄三	井沢政助	井沢政助	井沢政助
庶務	西尾 治	西尾 治	西尾 治	西尾 治
監事	岡本光生	岡本光生	小川義男	小川義男
#	平井弘幸	小林浪子	高橋和義	逢坂幸次



初代会長
梅田音市氏



現会長
牛尾 毅氏

現 況

現在、幕別町のスキー協会は、約130名の会員で組織して居り、会員も年々増加しています。事業計画は、スキー楽しみ会、スキーツアー、スキー教室の開催、基礎スキー講習検定会、パトロール員の研修会等の事業も企画、実施して居ります。スキー人口の拡大を図るため全日本スキー連盟公認の指導員 養島 茂（札内あかしゃ町）・笹原勝博・笹原昌子（札内青葉町）・井沢政助（旭町）・只野龍彦（札内春日町）、以上5名の指導員が中心となって積極的に基礎スキー講習会を開催して居ります。昭和53年度から開催しています夜間スキー教室（月曜～金曜まで5日間日程）は、本年度は、120名（昭和53年35名）の受講者があり、帯広市や遠く本別町、浦幌町からも参加者があり、ゲレンデ狭しと賑わって居りました。この講習会の成果を測定するため、全日本公認の基礎スキー講習検定会（2級～5級）を行ないましたが、2級11名、3級23名、4級15名の合格者を出し、上々の成績をあげました。また、札内地区には札内ノルデックスキー少年団（会長 生出忠夫）が結成されて居り、小川義男町体育指導員の指導で青少年の育成にも成果をあげている。

スキー協会発足と同時スタートしたスキーパトロール員（2級以上所持者）の研修会は、昭和46年より毎年実施して居り、昭和46年旭岳、昭和47～51年ニセコ、昭和52～53年小樽市天狗山とニセコ、昭和54年は日程を延長して札幌国際、ニセコ、大和ルスツで実施し、毎回10～12名のパトロール員が参加している。

その他、協会主催のスキーツアー、スキー楽しみ会等の行事にも年々参加者が多くなっています。

展 望

スキー協会が設立してまる8年、町営スキー場もロッジ・駐車場・簡易リフト等を設置する計画であり、年々増加するスキー人口に対処し、安全で楽しいスキーを普及、発展し、スキー大会の開催等も行ない冬期間の健康増進に寄与して行きたい。